

## 本川小学校の見学

### 斉藤

ここは原子爆弾投下の際に爆心地から最も近い学校として大きな被害を受けました。校舎は全焼、壊滅し10名の教職員と約400名の子どもの尊い命が一瞬に奪われました。校舎の一部が原爆の被害を受けた状態でそのまま残されており、中に入ると原爆の凄まじさがよく分かりました。炎で燃えたとされる跡や黒い雨が降ったとされる跡、壁があったはずなのに燃えて無くなってしまったところ、ここでたくさんの人が火傷で苦しんだのだと考えると怖くなりました。一番衝撃を受けたのが缶詰です。鉄が溶けて周りにくっついて不気味な形をしていました。何もかもが私の想像をはるかにこえるものでした。



## 8月6日(火) 平和記念式典に参列

### 斉藤

たくさんの外国の方や高齢者から小さな子どもまで多くの人が参列していました。暑い中、これだけ多くの人々が原爆の犠牲者によりそい、平和を強く願う様子に心が熱くなりました。私が一番印象に残っていることは、子ども代表の方による平和への誓いの言葉です。『願うだけで平和はおとずれません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。』みんなが平和に過ごすことができる世界は一人ではつくることができません。たくさんの人たちが一つの輪になって平和に対する意識を高めていくことが大事だと感じました。



### 藤田

出席した平和式典での子ども代表の「平和への誓い、の中の「色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たち」という言葉は、一言一句の重みを感じるほど私の心の中に強く響きました。平和の一步を踏み出すには、自分自身で広島から学び、そして伝えていくことが大切だと思いました。また放鳩の瞬間には、自由に大空を飛び回る姿に、広島から平和を世界に広げていくという全ての人々の思いが重なったように感じ、感動すると同時に平和への強い思いが沸き上がりました。

## 折り鶴平和大使になって



### 斉藤

広島市の平和公園に「平和の灯」という火があります。その火は昭和39(1964)年8月1日から燃え続けていて雨が降っても、風が吹いても決して消えることはありません。どうやったらこの火は消えるのか、それはこの世界から核兵器がなくなったときに消えるそうです。今回、平和記念式典に参加して、この火を消すことが私の夢となりました。世界中の核兵器をなくすには、核兵器が使用されるとどのような恐ろしいことが起きるのかを世界中の人に知ってもらうことが大切です。折り鶴平和大使の活動を通して学んだことや感じたことをたくさんの人に語り、平和について一緒に考え、共に行動を起こしていくことが私にできることであると感じました。

### 藤田

折り鶴平和大使として訪れた広島は、家族や修学旅行で訪れた時とは全く違う視点で見ることができました。平和記念資料館での展示資料は目に焼き付けるように何度も見返しました。悲惨な歴史から目を背けるのではなく、未来を切り開いて歩んでいくべき。そして、過去を繰り返さないように学び、より明るく平和な未来を自分たちの手で作っていかうと改めて思いました。これからは、大使として学んだたくさんのお話を日々の生活に生かし、平和な世の実現に向けて一歩ずつ行動を起こしていこうと思います。

## 2024(令和6)年

# 折り鶴平和大使のヒロシマ日記



※市民が折った約1万羽の折り鶴



川西市では、「非核平和都市宣言」の趣旨にのっとり、市民平和推進事業として、今年度も「折り鶴平和大使」派遣事業を実施しました。

今年度の折り鶴平和大使に選ばれたのは、桜が丘小学校6年の<sup>わか</sup>斉藤和奏さんと明峰中学校2年の<sup>はるか</sup>藤田春風さんです。

2人の大使は、8月6日に広島市で開催された平和記念式典に市民の代表として参列するとともに、市民が平和の願いを込めて折ったリンドウ色の折り鶴を平和公園の「原爆の子の像」に捧げました。

ここでは、2人の大使の派遣後の活動報告を掲載します。

## 7月30日(火) 市役所にて壮行式

### 藤田

川西市の代表として出席した壮行式は、市民の皆様の折り鶴に込められた平和への願いの重みを感じるとともに、その思いを伝える大切な役割である大使になったことを実感し、身が引き締まりました。



## 8月5日(月) 広島到着

### 斎藤

広島県に到着しました。クラッとするような猛暑のなか、79年前にこの地で被爆した人たちはこの暑さの何倍の熱風を浴びたと考えると、緊張が走り胸が苦しくなりました。初めて目にする原爆ドームは、私たちに核兵器の恐ろしさ、平和の大切さを静かに訴え続けているようでした。



## 折り鶴を捧ぐ

### 藤田

原爆の子の像に折り鶴を奉納しました。ブースいっぱい奉納された折り鶴を見て、平和を願う世界各国の人々の熱い思いに感動しました。

この先ずっと受け継がれていく平和への祈りと千羽鶴が訴え続ける平和への願いに応えていこうと思いました。



## 広島平和記念資料館などを見学

### 斉藤

平和記念資料館をじっくり見学して、原子爆弾の威力に衝撃を受けました。その中で私は、以前本で読んだ「まっ黒なおべんとう」の展示を見ました。その日、中学1年生の折免<sup>おりめんしげる</sup>くんはお母さんが作ったお弁当を食べるのをとても楽しみにしていました。しかし、あの原爆で滋くんは骨となってお母さんのものにもどりました。お弁当も真っ黒になって帰ってきました。

そのお弁当を実際に見て、滋くんの無念さとお母さんの深い悲しみは言葉にできないと感じました。家族が健康でおだやかに過ごせることに感謝をし、二度とこのような悲劇を繰り返してはならないと強く胸にきざみました。



### 藤田

平和記念資料館で、実際のご遺体の写真や遺品などを目を見ると、悲しみと同時に戦争に対する怒りが沸き起こりました。自分と同年代、もしくはもっと幼い子ども達が、一発の爆弾で一瞬にして命を失ったことに衝撃を受けました。誰もが大切な人と過ごす日常生活を送ることができるよう、現在進行形で起こっている戦争が、一秒でも早くなくなって欲しいと思いました。



世界中の人々が等しく平和な暮らしを営むことは、人類共通の願いです。それにもかかわらず、地球上の全生命を滅ぼしてもなお余るほどの核兵器が蓄積され、世界の平和に深刻な脅威を与えています。わが国は世界で最初の核被爆国として、核兵器と戦争の恐ろしさを全世界に訴え、その惨禍を絶対に繰り返さずにはなりません。私たちは祖先から受け継いできた猪名川の清流、豊かな緑、そして人類共通の財産である青く美しい地球を永遠に守り続けていくためにも、核兵器をつくらず・持たず・持ち込ませずの「非核三原則」を遵守するとともに、恐るべき核兵器の廃絶を願い、人と人とが憎しみあい傷つけあうことのない世界の創造を求めて、ここに市民の総意のもと、川西市を「非核平和都市」とすることを宣言します。

## 非核平和都市宣言

平成元年(1989年)7月14日 川西市